

## 【学会発表】

- 1) Shimomura-Kuroki J, Yamashita K, Oda K, Shimooka S, Amizuka N: Abnormal intracellular localization and transport of a PTH-R mutant protein, The 86th General Session & Exhibition of the IADR, 2008. 7.2-7.5, Toronto, Canada, J of Dent. Res., 87 (Special Issue B), 877, 2008.
- 2) 成松花弥, 李 敏啓, 織田公光, 網塚憲生: 前骨芽細胞として分類される細胞群における微細構造学的検索 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会 岡山 2009年3月29日

## 口腔生理学分野

## 【著書】

- 1) 山田好秋: 摂食嚥下のメカニズム (3.2 摂食嚥下に係わる機能). 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 (山田好秋, 向井美恵編), 16-20 頁, 医歯薬出版, 東京, 2008.

## 【論文】

- 1) Inagaki D, Miyaoka Y, Ashida I, Yamada Y: Influence of food properties and body posture on durations of swallowing-related muscle activities. J Oral Rehabil 35 (9): 656-663, 2008.
- 2) Taniguchi H, Tsukada T, Ootaki S, Yamada Y, Inoue M: Correspondence between food consistency and suprahyoid muscle activity, tongue pressure, and bolus transit times during the oropharyngeal phase of swallowing. J Appl Physiol 105 (3): 791-799, 2008.
- 3) Miyaoka S, Ashida I, Miyaoka Y, Yamada Y: Constancy of head turning recorded in healthy young humans. Ann Biomed Eng 37 (2): 428-436, 2008.
- 4) Mostafeezur R, Yamamura K, Kurose M, Yamada Y: Mastication-induced modulation of the jaw-opening reflex during different periods of mastication in awake rabbits. Brain Res 1254: 28-37, 2008.
- 5) Inagaki D, Miyaoka Y, Ashida I, Yamada Y: Influence of food properties and body position on swallowing-related muscle activity amplitude. J Oral Rehabil 36 (3): 176-183, 2008.
- 6) Miyaoka S, Ashida I, Miyaoka Y, Yamada Y: Constancy of Head Turning Recorded in Healthy Young Humans. Annals of Biomedical Engineering.
- 7) Kudo T, Mishima R, Yamamura K, Mostafeezur R, Zakir H, Kurose M, Yamada Y: Difference in physiological responses to sound stimulation in subjects with and without fear of dental treatments. Odontology 96:44-49, 2008.
- 8) Kaneko A, Kobayashi H, Yamada Y, Takeuchi S, Yamashita E: Head Posture Distribution in the job, Measured by a Remote Accelerometer. Prosthodont Res Pract 7 (2): 246-248, 2008.
- 9) Sanefuji K, Xeredo jl, Kurose M, Tanaka M, Kogata Y, Yamada Y, Yoshida N: Possible effects of periodontal inputs on the masticatory function. J Jpn Soc Stomatognath Funct 14: 89-95, 2008.
- 10) 山田好秋, 黒瀬雅之, 山村健介: 咀嚼を考える. 新潟歯学会雑誌 38 (1): 27-29, 2008.
- 11) 熊坂隆行, 升秀夫, 田村真美, 伊藤弥紗, 光石智子, 長谷川由希恵, 恩田絵里, 白井明子, 行木ユキ江, 菅野裕子, 安西みづ穂, 青山涼子, 藤森美紀, 矢口里子, 渡邊ちあき, 坂本 敏, 片岡三佳, 山田好秋: 動物看護科学生の動物介在活動・療法に関する意識調査. Animal Nursing 13 (1): 75-81, 2008.
- 12) 熊坂隆行, 山田好秋, 升 秀夫, 瀨瀬富久, 小窪和博: 統合失調症を中心とした慢性精神疾患患者の動物とのふれあいによる『気分』の変化に関する研究 参加傾向, 環境整備という観点から看護援助を検討する. Animal Nursing 13 (1): 82-92, 2008.
- 13) 別府茂, 江川広子, 八木 稔, 黒瀬雅之, 山田好秋: 介護保険施設で提供される食事形態の分類. 日咀嚼誌 18 (2): 101-111, 2008.
- 14) 山田好秋: 咀嚼と嚥下からみた脳機能. Jpn J Rehabil Med 45: 645-650, 2008.
- 15) 江川広子, 別府 茂, 八木 稔, 黒瀬雅之, 山田好秋: 咀嚼・嚥下機能障害評価基準の指針策定に向けた介護保険施設実態調査. 日咀嚼誌 18 (1): 37-48, 2008.
- 16) 山田好秋: “咀嚼と脳”の最新像: 咀嚼と脳に関連する研究 -最新のトレンド-. 日咀嚼誌 18 (1): 7-11, 2008.
- 17) 谷口裕重, 大瀧祥子, 梶井友佳, 山田好秋, 井上 誠: 筋萎縮性側索硬化症例における舌萎縮と嚥下時の食塊移送との関係. 日顎口腔機能会誌 15 (1): 30-37, 2008.

#### 【商業誌】

- 1) 山田好秋, 黒瀬雅之: 家庭でできる咀嚼・嚥下障害食の開発に向けて - 全国介護保険施設の実態調査 -. 財団法人 8020 推進財団会誌 8 : 120-121, 2009.
- 2) 山村健介: 1 から学ぶ! 口腔機能向上に必要な基礎知識 運動機能編 運動機能の維持・回復 顔面, 舌, 咽頭・喉頭の運動. デンタルハイジーン 医歯薬出版 28 (6) : 588-593, 2008.
- 3) 山村健介: 1 から学ぶ! 口腔機能向上に必要な基礎知識 運動機能編 運動機能の維持・回復 口腔の運動の特徴と下顎の運動. デンタルハイジーン 医歯薬出版 28 (5) : 480-485, 2008.
- 4) 山村健介: 1 から学ぶ! 口腔機能向上に必要な基礎知識 運動機能編 運動機能の維持・回復. デンタルハイジーン 医歯薬出版 28 (4) : 372-376, 2008.

#### 【研究費獲得】

- 1) 山田好秋, 山村健介, 加藤隆史, 井上 誠, 黒瀬雅之: 嚥下障害解明に向けた基礎的研究 嚥下誘発における覚醒・睡眠の影響. 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A), 18209056, 2008.
- 2) 山田好秋, 山村健介, 黒瀬雅之: ヒトの誘発嚥下研究システムの開発. 日本学術振興会科学研究費補助金 萌芽研究, 20659289, 2008.
- 3) 黒瀬雅之: 再生した歯根膜ルフィニ神経末は咀嚼運動の構成に再び寄与するか?. 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (B), 20791351, 2008.
- 4) 平野秀利: 三次元電子式関節可動域計測記録支援システムの構築. 日本学術振興会科学研究費補助金 奨励研究, 20932016, 2008.
- 5) 山田好秋, 山村健介: 嚥下に対するうま味の影響. 株式会社味の素共同研究, 2008.
- 6) 山田好秋, 山村健介: 米菓の硬さ基準の作成. 亀田製菓株式会社共同研究, 2008.

#### 【招待講演・シンポジウム】

- 1) 山田好秋: 味覚と健康 ~和食をヒントに高齢者の摂食機能改善を考える~. 日本薬学会 スポンサーシンポジウム, 京都, 2009年3月27日.
- 2) 山田好秋: 歯科医学教授要綱の改訂に向けて - 基礎系歯科医学領域 -. 第27回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 東京, 2008年7月11日-12日, 日本歯科医学教育学会雑誌 24 (3) : 255-256, 2008.
- 3) 山村健介: 咀嚼・嚥下時の運動制御と感覚情報処理における大脳皮質の役割, 第二回 日本顎脳機能研究会学術大会 日本脳機能研究会シンポジウム「口腔の感覚運動機能にかかわる神経機構」, 松戸, 2008年4月26日.
- 4) 山村健介: 口腔機能の科学 「咀嚼・嚥下の科学」, 第62回 NPO 法人 日本口腔科学会学術集会, 福岡, 2008年4月17日.

#### 【学会発表】

- 1) Yamamura K, Kurose M, Narita N and Yamada Y: Activity of the cerebral cortex during an Intra-oral Form-discrimination Task. 86th General Session & Exhibition of the IADR, Toronto Canada, 2008年7月2日-5日.
- 2) 伊藤加代子, 船山さおり, 井上 誠, 山田好秋: 要介護者における保湿剤の効果について. 第5回日本口腔ケア学会総会学術大会, 那覇, 2008年11月15日-16日, 日本口腔ケア学会雑誌 2 (1) : 58, 2008.
- 3) 別府 茂, 江川広子, 八木 稔, 黒瀬雅之, 山田好秋: 介護保険施設で提供される食事形態の分類 全国の介護保険施設の実態調査. 第19回日本咀嚼学会学術大会, 東京, 2008年9月27日-28日, 日本咀嚼学会雑誌 18 (2) : 101-111 頁, 2008.
- 4) 高橋 肇, 伊藤 彰, 山村健介, 新井映子, 山田好秋: 米菓の硬さについての研究. 第19回日本咀嚼学会学術大会, 東京, 2008年9月27日-28日, 日本咀嚼学会雑誌 18 (2) : 147-148 頁, 2008.
- 5) 高野弘子, 松田みどり, 山村健介, 黒瀬雅之, 藤山理恵, 山田好秋: 口腔ケアの継続指導による味覚閾値の変化. 第19回日本咀嚼学会学術大会, 東京, 2008年9月27日-28日, 日本咀嚼学会雑誌 18 (2) : 187-188 頁, 2008.
- 6) 松田みどり, 高野弘子, 山村健介, 黒瀬雅之, 山田好秋: 口腔体操の実施による障害者の口腔内状況の変化. 第19回日本咀嚼学会学術大会, 東京, 2008年9月27日-28日, 日本咀嚼学会雑誌 18 (2) : 185-186 頁, 2008.
- 7) Hossain Zakir, 黒瀬雅之, Rahman Mostafeezur, 山村健介, 山田好秋: Jaw-muscle spindle afferents activity during chewing different hardness of foods in awake rabbits. 第50回 歯科基礎医学会学術大会ならびに総会,

東京, 2008年9月23日-25日, Journal of Oral Biosciences 50. Suppl : 146頁, 2008.

- 8) 杉野伸一郎, 山村健介, 黒瀬雅之, Rahman Mostafeezur, 寺田昌人, 山田好秋: ヒトの実験的嚥下誘発システムの開発. 第50回 歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 東京, 2008年9月23日-25日, Journal of Oral Biosciences 50. Suppl : 147頁, 2008.
- 9) 黒瀬雅之, 山村健介, 杉野伸一郎, Rahman Mostafeezur, Hossain Zakir, 山田好秋: ヒトの嚥下反射誘発に舌咽神経は有効か?. 第50回 歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 東京, 2008年9月23日-25日, Journal of Oral Biosciences 50. Suppl : 144頁, 2008.
- 10) 山村健介, 黒瀬雅之, 山田好秋: 咀嚼時感覚情報処理における大脳皮質の役割. 第50回 歯科基礎医学会学術大会ならびに総会, 東京, 2008年9月23日-25日, Journal of Oral Biosciences 50. Suppl : 59頁, 2008.
- 11) 大瀧祥子, 谷口裕重, 井上 誠, 山田好秋, 小澤鉄太郎, 下畑享良, 西澤正豊: 当院を受診した多系統萎縮症患者の摂食・嚥下機能障害の特徴. 第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2008年9月13日-14日, 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 12 (3) : 446, 2008.
- 12) 柴田佐都子, 大瀧祥子, 井上誠, 山田好秋: 多系統萎縮症 (MSA) における口腔機能障害の特徴. 第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2008年9月13日-14日, 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 12 (3) : 446, 2008.
- 13) 福原孝子, 大瀧祥子, 谷口裕重, 梶井友佳, 山田好秋, 井上 誠: 当院摂食・嚥下機能回復部における臨床検討 反回神経麻痺を伴う嚥下障害の予後. 第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2008年9月13日-14日, 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 12 (3) : 446, 2008.
- 14) 高地いづみ, 山野井澄江, 別府 茂, 秋元幸平, 田辺英児, 井上 誠, 山田好秋: 高齢者や障害者向けに開設された「食の支援ステーション」. 第14回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2008年9月13日-14日, 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 12 (3) : 280, 2008.
- 15) 金子敦郎, 小林博, 山田好秋, 櫻井直樹, 甲斐朝子, 山下絵美: Bluetooth 規格のリモート加速度計によって測定された歯科治療時の頭部姿勢の解析. 日本顎口腔機能学会 第40回記念学術大会, 盛岡, 2008年4月26日, 日本顎口腔機能学会雑誌 15 (1) : 52-53, 2008.

#### 【研究会発表】

- 1) 杉野伸一郎, 山村健介, 黒瀬雅之, Rahman Mostafeezur, Hossain Zakir, 山田好秋: 実験的嚥下誘発システムを用いた刺激部位の違いによる嚥下反射誘発特性の検討. 第2回三叉神経領域の感覚-運動統合機構研究会, 新潟, 2008年12月7日.
- 2) Hossain Zakir, 山村健介, 黒瀬雅之, Rahman Mostafeezur, 杉野伸一郎, 山田好秋: Discharge of Spindle Afferents From Jaw-closing Muscles During Chewing Different Hardness of Foods in Awake Rabbits. 第2回三叉神経領域の感覚-運動統合機構研究会, 新潟, 2008年12月7日.

#### 【受賞】

- 1) 山村健介: 特定非営利活動法人 日本咀嚼学会第18回学術大会優秀ポスター賞. 形状の異なる米菓の口腔内タスク時の大脳皮質血流変化. 2008年9月28日.

#### 【その他】

- 1) 山田好秋: 咀嚼・嚥下機能と機能低下がもたらす問題. 味の素ライフサイエンスセンター招待講演, 川崎, 2008年7月29日.
- 2) 山村健介: 大脳皮質における口腔感覚認知のしくみ. 味の素ライフサイエンスセンター招待講演, 川崎, 2008年7月24日.

### 口腔病理学分野

#### 【著書】

- 1) 朔 敬: 代謝障害. 全国歯科衛生士教育協議会 (編): 新歯科衛生士教本病理学, 第2版, 8-21頁, 医歯薬出版, 東京, 2008.
- 2) 朔 敬: 腫瘍. 全国歯科衛生士教育協議会 (編): 新歯科衛生士教本病理学, 第2版, 79-96頁, 医歯薬出版,